

令和4年度大阪府子ども読書活動推進事業計画

(1) 令和3年度事業実施計画 総括

子ども読書活動推進会議	社会教育委員会議
<p>○新型コロナウイルス感染症の影響があり、一部実施できなかった事業があるが、概ね重点的な7つの施策に掲げる方策に沿った事業を実施することができた。</p> <p>○第4次大阪府子ども読書活動推進事業計画1年目である令和3年度において、民間企業と連携し、家庭や社会への子ども読書活動を普及・啓発するとともに、関係各課が参画する推進会議を設置し、事業実施計画を立て、学校図書館協議会との連携を始めるなど、子どものあらゆる生活の場において読書活動の環境整備を進めることができた。</p> <p>○学校と図書館とのネットワーク構築の基盤固めを進めることができたものの、現時点では、連携の内容は概ね情報共有に留まっており、連携方法や内容等は今後の課題である。</p> <p>○また、子ども読書活動の普及・啓発における市町村との連携等についても、事業の共同実施等、府内全体におけるネットワーク構築を引き続き強化していく必要がある。</p>	<p>○子どもの読書活動を進めるためには、大人が本を読み、促すことが重要であり、学校の教員からの促しは、子どもが本を読みたいと思っきっかけとして効果的である。学校で取組みが実施できるよう学校の教員とのネットワークを構築したことは評価できる。</p> <p>○各項目で挙げた意見等を踏まえ、子どもに本の良さが伝わるように取組みを進めるとともに、読書の意義を伝えるなど引き続き学校や市町村の担当部局、商業施設等との連携の更なる強化を図りたい。</p>

(2) 令和4年度事業実施計画のポイント

1	子どもに読書を促す大人への「子ども読書活動推進」啓発及び学校・図書館・民間事業者等との情報共有の強化・子ども読書活動の意義の発信
2	多言語読書活動推進事業の実施

(3) 令和4年度事業実施計画 具体的な取組

A 重点的な施策	B 具体的方策		C 第1回社会教育委員会議 令和4年度 事業実施計画	D 実 績	E 子ども読書活動推進会議 成果・課題（自己分析）	F 改 善	G 第2回社会教育委員会議 ご意見
	発達段階	主な内容					
1 読書活動普及・啓発	乳幼児	<ul style="list-style-type: none"> ・えほんのひろば ・おはなし会 	<ul style="list-style-type: none"> ・商業施設でえほんのひろばを開催 ・市町村・学校等へのえほんのひろばセットの貸出 ・府立中央図書館にて、おはなし会を開催 	<ul style="list-style-type: none"> 商業施設等でえほんのひろばを開催 1 令和4年4月23日（共催：岬町 於：岬町青少年センター）14人 2 令和4年10月23日（共催：藤井寺市 於：イオン藤井寺SC）123人 3 令和4年11月27日（共催：泉佐野市 於：イオンモール日根野）138人 団体へのえほんのひろば貸出（6件） 乳幼児向けおはなし会「たんぼぼ」コロナの影響で休止中 通常のおはなし会 コロナの影響で休止中 子ども読書の日及び夏休みにおはなし会を実施（6回） 夏休み行事として大学生によるおはなし会の実施（4回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウィズコロナの中、えほんのひろばを再開できた。 ・乳幼児向けおはなし会「たんぼぼ」や通常のおはなし会は、コロナの影響で実施できていない。（高齢者のボランティアが多い） ・夏休みはコロナ対策を講じながら昨年度よりはいろいろなイベントを実施できた。 ・子どもの来館者が減っている。滞在時間も短いため、イベント参加につながらない。平日実施のおはなし会は夏休み期間中であって参加者が少ない傾向にある。 		
	小中高	<ul style="list-style-type: none"> ・読書イベント ・SNSやミニコミ誌等を活用した読書活動啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・作家が学校等を訪問するオーサージット事業を開催（府費開催（幼保・小・中・高・支援・フリースクール・矯正施設・児童自立支援施設）計12回） ・本のPOPづくりコンクールの開催（中・高）（7月～9月頃） ・府立中央図書館にて、学校等からの見学受入、スクールサービスの実施 ・サンケイリビング小学生新聞（公立小4～6年生に配布）にて読書手法などの紹介記事を掲載（夏・春計2回） ・ティーンズアスリートプレス（中高に配布）にてスポーツ選手による本紹介を掲載（冬・春計3回） 	<ul style="list-style-type: none"> オーサージット事業を開催（府負担：12回、実費負担：21回） POPづくりコンクール（応募総数867作品） 図書館見学受入（22件）、スクールサービスデイ（4件） 高校生のための図書館講座の開催（1回） サンケイリビング小学生新聞（夏1回・春1回（予定）） ティーンズアスリートプレス（年度内1回予定） 	<ul style="list-style-type: none"> ・オーサージット事業における応募数は、令和3年度よりも増加。当該事業の需要の高さが伺えた。 ・感染の波が少し収まった際、一気に複数の小学校からの見学の申し出が重なった。今後も受入調整の難しい時期が生じる可能性がある。 ・見学で来館された中には、調べ学習を目的とした学校もあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策は、状況に応じて対応が変化する。新型コロナウイルスの影響を鑑み、その変化に対応できるようにする。 ・引き続き民間企業と連携のうえ、多様な広告媒体で効果的に事業の周知を図る。 	
	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども読書の日」「こどもの読書週間」におけるイベント ・OSAKA PAGE ONE ・読書活動普及啓発広報物の作成 ・「こころの再生」府民運動と連携した読書活動の普及・啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども読書の日（こどもの読書週間）の趣旨に沿った事業を開催（4月23日～5月12日） ・民間事業者と連携し、お菓子が読めるQRコード及びOSAKA PAGE ONEのロゴを掲載 ※令和4年度も民間事業者と引き続き連携し、別の商品において、別の絵本を読めるようにする。 ・OSAKA PAGE ONEのパナーを作成し、市町村・民間事業者等へHP掲載依頼 ・サンケイリビング小学生新聞（教育委員会発行協力、こころの再生府民運動啓発協力）の記事提供協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業と協力のうえ、企業所有の広告媒体を活用し、「子ども読書の日」の周知及び子ども読書活動啓発を実施 ・大阪府庁構内放送を活用し、「子ども読書週間」の周知と啓発を実施 子ども読書の日 おはなし会を実施（1回） こどもの読書週間 こどもクイズはかせ（来館参加68人） ※WEB版同時開催 ・民間事業者と協力のうえ、令和4年度は新たに、「ココアingleレットジュース」にQRコード及びOSAKA PAGE ONEのロゴを掲載 ・協力民間事業者HP及び府立中央図書館HPにて、OSAKA PAGE ONEのパナーを掲載 ・サンケイリビング小学生新聞（夏・春）の記事提供協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・民間企業と連携することにより、多様な広告媒体で事業の周知、読書の重要性を啓発することができた。 ・公民連携事業（お菓子事業）の実施により、子どもが本に触れる機会を増やすとともに、広く府民へ子ども読書活動推進の重要性を周知することができた。（12月7日付け毎日新聞朝刊に記事掲載） 		
2 乳幼児の時期の保護者や教育保育施設への読書活動支援	乳幼児	<ul style="list-style-type: none"> ・ブックスタートなど、家庭や地域における読み聞かせ活動の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ・「新子育て支援交付金」活用について会議にて市町村へ周知 ・民間事業者の協力を得て乳幼児期のお勧め本リーフレットを作成し、市町村立図書館、保健所へ配布（5万部） 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回、第2回市町村社会教育主管課長会議にて周知 ・市町村立図書館や保健所へリーフレットを配布し、ブックスタート等で活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・新子育て支援交付金を活用してブックスタート事業等を実施する市町村（9団体）があり、読書活動支援の一助となっている。 ・リーフレット作成に協力いただいている事業者から、再来年以降の協力継続が未確定となっており、リーフレットの配布・活用に課題が生じる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、リーフレット作成に協力いただいている事業者に、協力継続を要請。 	

A		B		C	D	E	F	G
重点的な施策		具体的方策		第1回社会教育委員会議		子ども読書活動推進会議		第2回社会教育委員会議
		発達段階	主な内容	令和4年度 事業実施計画	実績	成果・課題（自己分析）	改善	ご意見
3	中高生が読書への興味・関心を高めるためのインターネットを活用した取組	中高生	<ul style="list-style-type: none"> ・府公式Twitter「さあ、本を読もう！」 ・大阪府中高生ビプリオバトル大会の動画配信等 ・オーサービジット事業（中高生向け）の動画配信等 ・「YA！YA！YA！べんりやん図書館」の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週金曜日に府公式Twitterにて主に中高生に向けた本を紹介 ・大阪府中高生ビプリオバトル大会の動画配信の実施（12月以降） ・オーサービジット事業（中高生向け）の動画配信の実施（2月以降） ・Instagramによる情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・Twitterにて本の紹介を継続（11月末時点：33回配信） ・年度内に作成予定 ・年度内に作成予定 ・フォロー423件（12月6日時点） ・毎週、資料紹介及び過去のPOP広場応募作品からのPOP紹介等を発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・Twitterにて本の紹介をしたところ、ツイートに対する返信があり、本の紹介を通して読書活動の普及に繋がっているとみられる。 ・Instagramのフォロワーが増加し、事業の紹介において一定の効果が見られる。 ・動画配信等においては、経験が少ないため、いかに効果的に配信できるかが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画配信等をわかりやすく効果的に配信する方法について、経験を通してノウハウの蓄積していく。 	
4	支援が必要な子どもへの読書環境づくり	全体	<ul style="list-style-type: none"> ・えほんのひろばや読み聞かせなど、支援が必要な子どもの状況に応じた本との出会いを提供 ・障がいのある子どもや日本語指導が必要な子どもに対する読み聞かせ活動の支援 ・子どもの読書活動に関わる支援者に対する研修や講演等 ・特別貸出用図書セットの充実及び協力貸出 ・図書館利用に困難がある子どもやその保護者に対するサービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・「多言語読書活動推進事業」の実施 ・多言語版保護者向け絵本紹介リーフレットの配布 ・多言語版えほんのひろば及び読み聞かせイベントの実施 ・子どもの読書活動支援者を対象としたフォーラム開催 ・大学との連携による読み聞かせ動画の作成・周知 ・府立中央図書館において、手話でのおはなし会を実施 ・府立中央図書館において、支援が必要な子どもの読書活動の現状や課題・方策について、研修や講演等を実施 ・多言語で書かれた本、誰もが楽しめる文字なし絵本等の貸出セットを充実し、学校や教育保育施設、ボランティア等の団体に貸出しを実施 ・郵送貸出や、アプリケーション・ソフトを利用した対面朗読サービス等を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語版保護者向け絵本紹介リーフレットの作成（韓国朝鮮語、中国語、ベトナム語、フィリピン語、英語、計10,000部予定） ・多言語版えほんのひろばを開催（府内3箇所において開催） ・多言語読書活動の推進についてのフォーラムを実施予定（2月初旬） ・大学との連携による読み聞かせ動画を教育庁YouTubeにアップロード（4件） 聴覚支援学校への手話による出張おはなし会の実施（2回） 楽しい手話はコロナの影響で休止中（再開に向けて調整中） 読書活動推進支援員養成講座（2回）実施 支援学校への出前講習（読書活動支援関係 1回） 図書館所蔵多言語資料の学校向け広報チラシ作成及び学校関係者の研修で配布等活用中 大きな文字の青い鳥文庫(大活字本) 4セット用意 朝の読書用セットYA（中高生）用 2セット用意 朝の読書用セット高学年、成年年齢引き下げに関連した法律・社会 各1セット他（予定含む）用意 特別貸出用図書のべ48セット貸出、アジア絵本のべ2セット貸出 図書館利用に困難のある子どもに対して郵送貸出等を実施（実績34件105点） 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援学校において学校図書館の蔵書が十分でないところがある。 ・少しずつ入手はしているものの多言語絵本の取扱書店が少なく、言語により選書・入手が難しい。 ・コロナの影響もあり、外国語図書の入手が困難になっている（輸送、価格の高騰など） ・多言語絵本の整理・目録等に課題 ・特別貸出用図書セット：府域市町村図書館、矯正施設等からの要望を加味して整備を進めている。活用されているが、予算に限りがあるため、要求に十分応えられていない状況（既存のセットの更新を含む）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育ゆめ基金制度（ふるさと納税制度）を活用し、特別貸出用図書セット用の資料費等の寄付を募集（目標100万円） 	
5	子どもに本を届けるネットワークの整備	乳幼児 小中高 全体	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアとの連携支援 ・特別貸出用図書セット（絵本）の貸出 ・ボランティアと学校の連携支援 ・特別貸出用図書セット（朝読・調べ学習等）の貸出 ・学校図書館（「学習」「情報」「読書」センター機能）の活用促進 ・人材育成 ・読書活動支援者に対する読書関連講演や好事例の紹介 ・おすすめ本紹介冊子の作成 ・特別貸出用図書セットの貸出 ・ネットワークづくりの強化 	<ul style="list-style-type: none"> ・府内で活動されている読書ボランティアの情報収集 ・教育保育施設に対して、読み聞かせボランティアを一覧にして紹介・周知 ・特別貸出用図書セット（絵本）の貸出 ・府内市町村に対し、状況に応じてボランティアとの連携を進めるよう助言 ・特別貸出用図書セット（朝読・調べ学習等）の貸出 ・読書活動フォーラム、学校図書館担当指導主事会の実施 ・学校図書館を活用した授業づくりモデル校に対する研修支援 ・学校図書館を活用した授業づくりモデル校の取組みの普及、発信 ・大阪府子ども読書活動ネットワークフォーラム ・小学校読書活動推進研修の実施 ・学校図書館担当指導主事会の実施 ・児童サービス担当者連絡会の実施 ・司書セミナーの実施 ・ボランティア養成講座等の実施 ・府内の図書館職員等のスキルアップに役立つ講座等の実施 ・府立中央図書館にて、「新刊紹介」講座を実施 ・「だっこでよんで」「よんでよんで」「ほんだな」等の作成 ・図書館未設置自治体公民館図書室、地域型保育病院内患者図書室、児童福祉施設、矯正施設等への貸出支援の実施 ・学校図書館協議会（SLA）との連携（情報共有等） ・府教育庁からの府内公立図書館への情報発信 ・教育コミュニティづくりへの子ども読書活動推進に関する情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・多言語えほんのひろばにおいて、読み聞かせボランティアの方と連携 セット貸出（0件） 令和4年度市町村教育委員会に対する指導・助言事項にした。 のべ13校、42セット貸出し ・学校図書館担当指導主事会を実施 ・フォーラムにて、モデル校事例発表（予定） ・モデル校への有識者派遣を実施 モデル校の取組み内容がわかる資料を作成し、事例を共有しやすいようにした。 オンラインを活用しながら研修を実施 ・新刊紹介講座の実施（会場79人、配信789人申込） ・小学校読書活動推進研修（1回） ・保育技術専門研修（1回） ・児童サービス担当者連絡会（開催予定） ・ボランティア養成講座等の実施（支援員養成講座2回） ・府内の図書館職員等のスキルアップに役立つ講座等の実施（合同研修3回、うち録画配信2回） ・司書セミナー（オンラインのみは2回、集合5回（うちオンラインとの併用は2回）） ほんだな2022の発行（6月30日） 児童福祉施設1、矯正施設3へ特別貸出用図書セットを貸出（のべ16セット） ・学校図書館協議会（SLA）に府教育庁が実施する事業等を周知予定 ・教育コミュニティメールマガジンにて読書活動推進に関する情報発信 	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの方が読み聞かせを行うことによって、子どもや参加者にわかりやすく絵本の内容を伝えることができた。 ・ニーズにあった、乳幼児用セットの貸出を検討。 ・実践事例等の充実課題 ・会場での実施と録画配信の併用のノウハウができたことは成果である。録画配信においては、アンケートへの回答が一部の参加者に限られ、一部の参加者からは詳細な回答が得られるものの、広く全員の状況を知ることが難しいことが課題。 な課題を受けて、今年度から一部の研修においては、集合、オンライン、録画配信等、組合せを変えて実施。うち、同じ配信でも、リアルタイムで行うオンライン研修では、質疑応答など相互交流が行われて好評だったことは成果。一方、録画配信と異なり、決められた時間にオンラインで参加することへの理解が課題。 ・「ほんだな」を夏休み前に発行することで、子どもが夏休み中も適切な本選びの一助となることができた。 ・図書の貸出により、児童福祉施設や矯正施設における読書環境の充実を図ることができた。 ・事業の周知や情報発信を行うことにより、ネットワークの継続を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、研修については、集合、オンライン、録画配信等組合せを変え、効果的に実施できるよう、ノウハウを蓄積していく。 	

A		B		C	D	E	F	G
重点的な施策		発達段階	具体的方策 主な内容	第1回社会教育委員会議 令和4年度 事業実施計画	実績	子ども読書活動推進会議 成果・課題（自己分析）	改善	第2回社会教育委員会議 ご意見
6	子どもの読書活動を進めるための組織の設置	—	・子ども読書活動推進会議を設置し、毎年後事業計画の内容を検討	・子ども読書活動の推進に取り組む関係各課（小中学校課・高等学校課・支援教育課・中央図書館・地域教育振興課）による子ども読書活動推進会議の開催	会議を2回開催し、計画策定や意見交換等を行った	関係各課の取組みの確認及び意見交換を行うことができています。	意見交換以外にも関係各課で協働する事業がないか等も、検討する。	
7	電子書籍の活用検討	—	・電子書籍の活用検討	・府立中央図書館において、電子書籍の活用に関する調査・検討、無料コンテンツの紹介	・電子書籍貸出サービスの導入状況について府城市町村図書館へのアンケートを実施予定（R4.12予定。R元度からの継続調査） ・紙・電子媒体資料統合提供調査チームによる報告書作成（予定）	・府域内市町村の電子書籍の情報が収集できた。		

（4）令和4年度事業実施計画 総括

子ども読書活動推進会議	社会教育委員会議
<p>○「えほんのひろば」をはじめ、令和3年度に中止していたイベントの一部を再開することができ、概ね9つの重点的な施策に掲げる、具体的な方策に沿った事業を実施することができた。</p> <p>○一方で、高齢者のボランティアに協力いただくイベントは再開を見送った他、図書館で子どもの来館者が減少している等、新型コロナウイルスの影響が残っている。いかにしてイベントの再開や来館者数等をコロナ前の水準に戻すかが課題。</p> <p>○令和4年度は「多言語読書活動推進事業」を実施。市町村・NPO法人と協働のうえ、「多言語えほんのひろば」をショッピングモールや公共施設で実施。ショッピングモールでは来場者が多かったものの、図書館においてはショッピングモールと比べて来場者が伸びず、集客が課題。より効果的な周知方法の検討が必要。</p>	